

(袖裏)

青木久衛様 上松万造

貴下御直披

(本文)

過日は参殿仕り学校事件

何かと御配慮奉得候、其砌ハ叔公之

暴動何とも申上方無之、御耐忍

之段実以テ奉恐察り、帰路参

館御内話申上候条ニ内々相伺候処、

元来学校ノ萱野ニ候ハ、此回

新営費へ差出サセ候方当然之儀ニ

有之ベクトノ事ニ御座候、乍然先般も

会議席ニ而申上候通り、銘々費富

有之儀ニ付、萱野ノ外ニ夫々身分

相応之御寄附被成候ハ、何方迄も

実理ト名義正シアルベク奉存候、

其後如何御集議相成候哉ハ不承候

得共、未タ御沙汰無之二付、定メテ

御評議中とも奉察候間、右之次第

業々以使御内意申上候、右迪深ク

差合御談判之儀可然奉存候、

先ハ右御内々申上度、尚外拝眉

万々可申演候、早々、

十月二十九日

追而本文ハ内談之次第実以テ貴君御耐忍之
厚キニ対シ感謝之余リ心事無腹蔵

吐露仕候、御一覽之後此状ハ火中可被下候、

穴かしこ、

且亦御掛り官も来月三四日迄御在県、其後

他へ御派出被成候へば、まつ御伺被下候方可然奉存候、